

I 研究主題

豊かな学力を身に付け、主体的に生きる日南っ子の育成

～小中連携・小中一貫教育による実践をとおして～

II 主題設定の理由

日南市では、「豊かな心と命を大切にする振徳教育」の推進を掲げ、各学校において、特色ある教育活動を展開しながら、児童生徒の「豊かな学力と豊かな心」の育成に取り組んでいる。本研究所でも、児童生徒が豊かな学力を身に付けることを目指して、平成18年度より総合学力調査の分析を生かした効果的な指導方法の工夫改善について実践的な研究を行ってきた。その結果、「教科学力（各教科の総合的な学力）」「学びの基礎力（学力向上のために大切である基礎的な意識や行動、生活習慣など）」「社会的実践力（学習したことを実際に社会の中で生かしていく力）」などの力を高めることができた。

また、本市では、小中一貫教育推進プランの策定とあわせて、小・中学校9年間をとおして、すべての児童生徒の可能性を最大限に伸ばすべく、小中学校が協力して、教科学習・生徒指導・学校行事などについて達成目標を立てて取り組んでいるところである。

一貫教育のねらいとして、本市では次の3点を掲げている。

- 「すぐれた知性（豊かな学力）」や「豊かな心」「たくましい体」を育成し、保護者、地域住民に信頼される学校をつくる。
- 知・徳・体だけでなく、食育の推進も図りながらバランスのとれた「生きる力」を身に付けた子どもを育成する。
- 日南市民として主体的に生きる基礎を身に付けた子どもを育成する。

小中一貫教育を推進することにより、小学校から中学校への接続がよりスムーズになるのは勿論のこと、9年間の計画的・継続的な教育活動を展開することにより、「生きる力」の育成がより確かなものになるなど、期待される効果も大きい。

本研究所では、昨年度から小・中学校の滑らかな移行を実現するための授業プランの研究及び9年間を見通した指導計画の作成、特色ある教育活動（日南ふるさと学）の指導計画の作成及び指導法を研究し一定の成果を得てきたが、実践検証面に課題があった。そこで本年度は、それぞれの研究内容の実践をもとにしての検証・修正をしていくこととした。

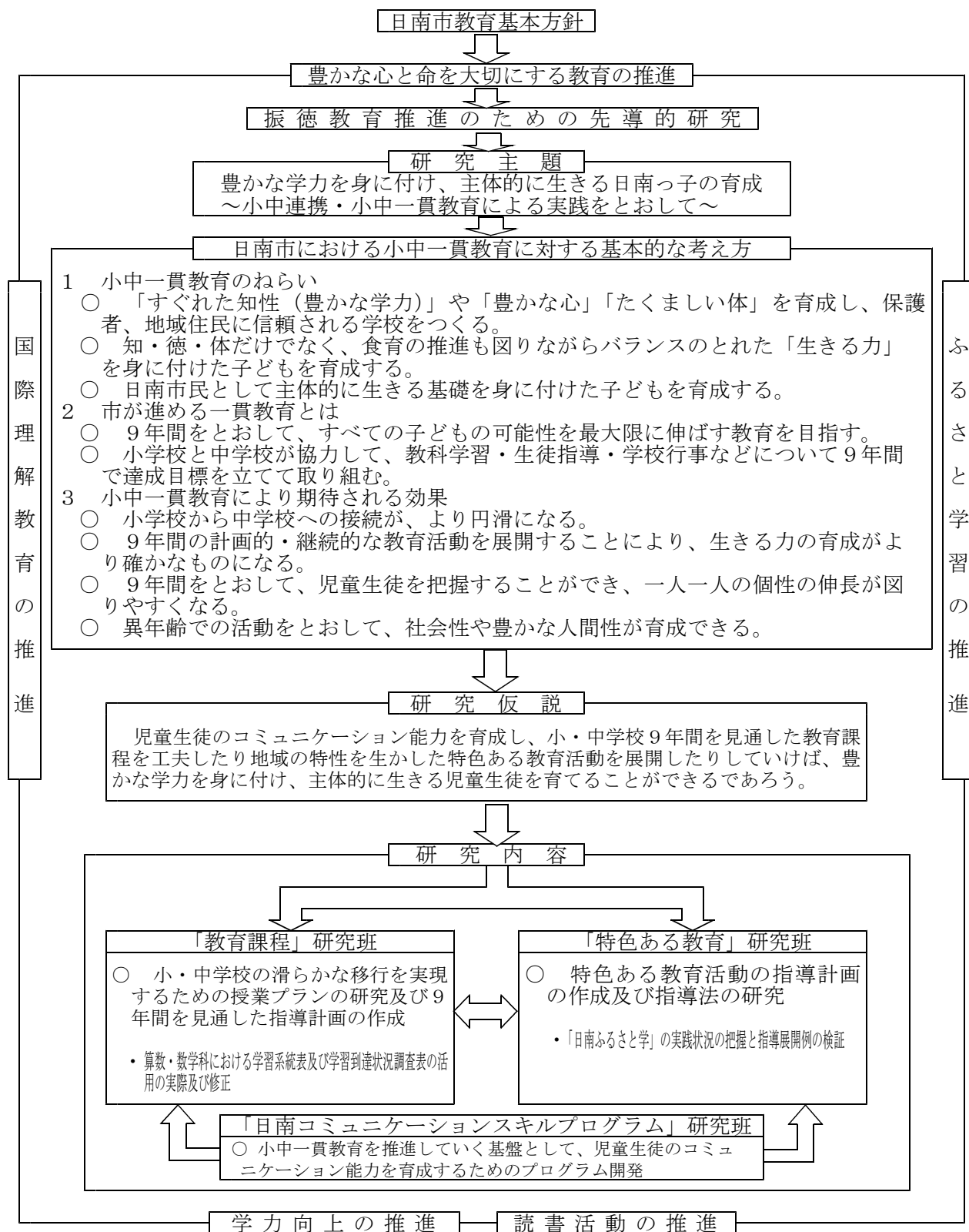
ところで、このような教育を推進するためには、その基盤として、よりよい学習集団・生活集団づくりが必要不可欠である。本市の児童生徒一人一人には、良好な人間関係を醸成するためのコミュニケーション能力がやや不足していることが研究を進める上で問題となった。そこで、本年度は、昨年度の研究内容に加え新たに「児童生徒にコミュニケーション能力を育成するためのプログラム開発」に取り組むこととした。

このように地域の特性を生かした小中一貫教育を推進することで、「豊かな学力を身に付け、主体的に生きる日南っ子の育成」をめざしたい。

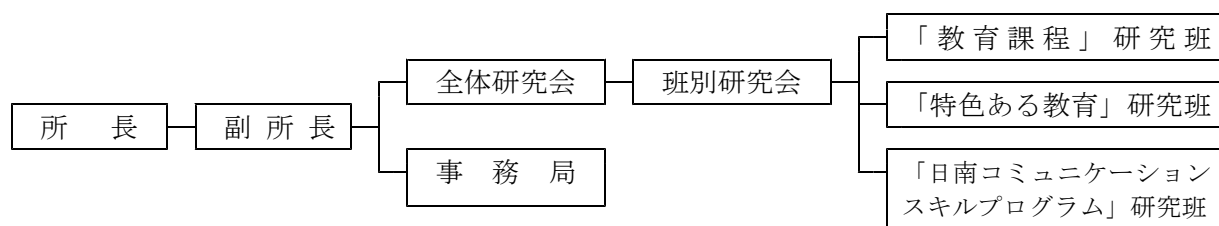
III 研究仮説

- 児童生徒のコミュニケーション能力を育成し、小・中学校9年間を見通した教育課程を工夫したり地域の特性を生かした特色ある教育活動を展開したりしていけば、豊かな学力を身に付け、主体的に生きる児童生徒を育てることができるであろう。

Ⅳ 研究の全体構想



Ⅴ 研究の組織



VI 研究の実際

1 「教育課程」研究班

(1) はじめに

本研究班では昨年度、旧日南市内20校全ての小学6年生と中学1年生を対象に、中学校進学に関する意識調査を実施した。その結果、勉強が難しくなることへの不安が最も強いことが分かり、その不安を解消するための手立てについて研究を進めてきた。

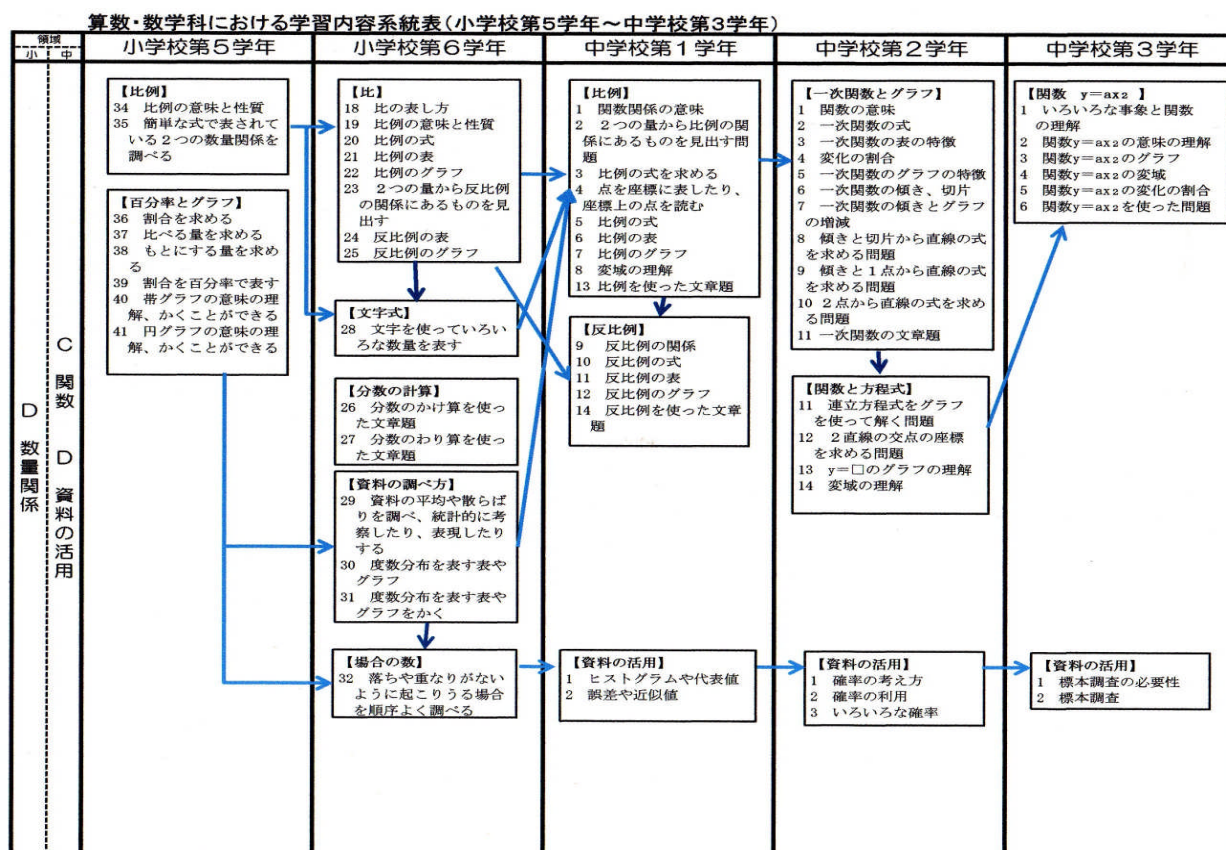
昨年度、算数・数学科について、小・中学校9年間を見通した指導計画の研究として、「算数・数学科における学習内容系統表」及び「算数・数学科における学習到達状況調査表」を作成した。

本年度は、それらを活用した授業実践をとおして、小・中学校の滑らかな移行を実現するための算数・数学科の指導の在り方について研究を進めることにした。小・中学校9年間の学習内容の系統性を踏まえた指導や、児童生徒の実態に即した指導のために、学習内容系統表及び学習到達状況調査表の有効な活用について研究を深めることにより、中学進学における学習面の不安の解消を図るとともに、9年間の系統的な学習が進められるように手立てをとることにした。

(2) 小・中学校9年間を見通した指導計画の作成

基礎学力定着のための小・中学校9年間を見通した指導計画について、昨年度の「数と計算」（小学校）と「数と式」（中学校）に引き続き、今年度は「数量関係」（小学校）と「関数」「資料の活用」（中学校）の領域で『学習内容系統表』を作成した。

【学習内容系統表（小学校～中3）】



(3) 小学校教諭の中学校における小中連携授業の実際

ア 学習内容系統表の活用

- 学習内容系統表を利用し、内容の系統性を踏まえて指導案を作成することができた。
小学校教諭と学習内容系統表を共有しているので、電話やFAX等で打ち合わせをすることができ、時間的な負担を軽減することができた。

イ 学習到達状況調査表の活用

- 「比例・反比例」の単元に入る前に学習到達状況調査表を参考に、レディネステストを作成・実施した。その結果をもとに、少人数指導におけるコース編成を行った。基礎コースに所属する生徒の中には、既習事項の定着が十分でない生徒が多いことが把握できた。そのため、導入段階での既習事項の十分な復習の必要性を感じ、実際に生徒を指導していた小学校教諭に協力を仰ぎ、ティームティーチングの形式で授業を行うことにした。

ウ 研究授業

- 導入の段階における既習事項の確認を小学校教諭が担当し、展開の段階からは中学校教諭が主となり授業を進めた。その結果、新しい単元の学習にスムーズに入ることができた。

エ 研究授業後のアンケート結果

- 研究授業直後に、以下の項目でアンケートを実施した。

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| 1 小学校に学習した内容を思い出せましたか。 | |
| ① 大変よく思い出せた | (38.5%) |
| ② 思い出せた | (61.5%) |
| ③ 思い出せなかった | (0%) |
| 2 「変数」・「定数」・「比例」・「比例定数」の意味はわかりましたか。 | |
| ① よくわかった | (30.8%) |
| ② わかった | (61.5%) |
| ③ あまりわからなかった | (7.7%) |



オ 小中連携授業における成果と課題

- 生徒から、「小学校の時に学習した内容がだんだん思い出せた。これからも忘れないように、新しい学習をしたい。」「本当に楽しかったし、久しぶりに会って小学校の内容も思い出せたので、すごく楽しかった。」「小学校と中学校の内容を比べることができて、楽しく授業を受けることができた。」など、アンケート結果や感想から、新しい単元の学習にスムーズに入ることができた様子が伺えた。

一方、小学校教諭と初めて接する他小学校出身の生徒の中には、「先生とも初めてだし、研究授業だったから緊張して発表しにくかった。」と戸惑ったことを感想に挙げている者もいた。また、授業者の反省としては、既習事項の復習に時間をかけすぎてしまった点などが課題として挙げられる。

2 「特色ある教育」研究班

(1) はじめに

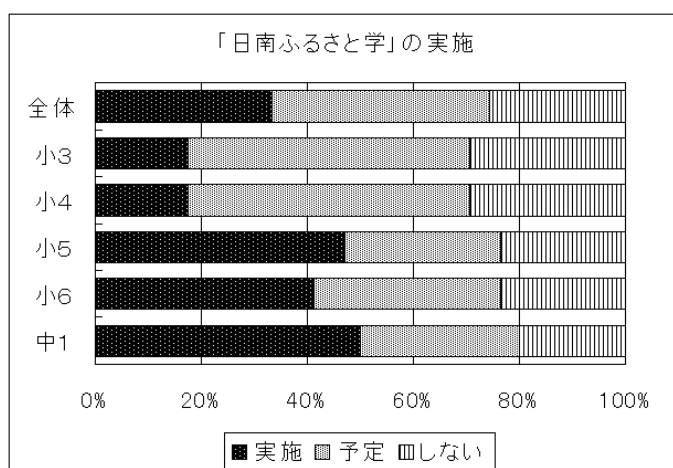
昨年度より本研究所では、日南市ならではの特色ある教育活動を展開するために、各学年の発達段階、系統を踏まえた学習の研究を行っている。これを「日南ふるさと学」と称し、小学校3年生から中学校1年生までの各10時間程度の学習を総合的な学習の時間の中に盛り込み、指導展開例と資料データを作成し、各学校に配付した。この、「日南ふるさと学」は旧日南市の学校では本年度より先行実施、次年度からは全ての日南市の小中学校で実施する予定となっている。

そこで、本年度は、日南市内の各学校がどのように「日南ふるさと学」を実践し、また実践する中でどのような成果や課題が見えてきたのかを検証し、次年度に生かすために取組の実態を調査した。

(2) 「日南ふるさと学」の実践状況の把握と指導展開例の検証

「日南ふるさと学」の状況を把握するために、日南市内全ての小中学校の該当学年の教職員を対象にアンケートを行った。また、実践事例として「日南市基礎学力アップ推進事業」で「日南ふるさと学」について授業公開を行った東郷小学校の例を紹介する。

ア 「日南ふるさと学」実施状況



本年度「日南ふるさと学」を約7割の学校（旧日南市においてはすべての学校）が年間指導計画への位置付けを行い、実施または実施を予定していた。

実施にあたっては、ほとんどの学校・学年で昨年度日南市教育研究所が作成した指導展開例や資料・ワークシート等が活用されていた。

年間指導計画への位置付けやその

実施は、旧日南市の学校では、全ての学校・学年において行われているが、旧北郷町・南郷町の学校では市町合併の関係から本年度は実施されていない状況にある。

イ 実践事例

1	学校名・学年	日南市立東郷小学校（旧日南市） 第6学年
2	テーマ	「地元の名物を作ってみよう！」【歴史・文化（郷土料理）】 ～調理実習をとおして～
3	時期・時数	10～11月 15時間
4	活動の流れ	(1) 見つける・見通す（2時間） 始めに写真資料などを見て、郷土料理が日南の特産物（魚、野菜など）を使った料理であること、郷土の素材を生かした料理であることを児童達は知る。また、郷土料理に関するアンケートを行ったり、日南の郷土料理、特産物、有名なもの・人・場所などを

家の人や地域の人に聞いて調べてきたりすることで、地元の郷土料理に対する意識付けを行った。その知識を基に、飫肥城下町への遠足を行い、そこで得た地元の方々からのアドバイスや事柄などから課題設定を行った。

その後、K J法を使って、児童たちから調べてみたい郷土料理について、意見を出させた後、グループ分けをした。

調べる方法・内容については児童たちに考えさせた後、教師側からもアドバイスをを行った。方法としては、インタビュー・手紙を書く・電話をする・本・インターネット・実際に食べてみる・作ってみるなどで、調べる視点としては歴史・材料・作り方・作ってきた人たちの思いや考え・栄養・地産地消の考え・実際に作ってみてなどがあげられた。

「地元の名物料理にチャレンジしよう」
6年 名前()

調べる方法

インタビュー(家の人、地域の人、作っている人など)
手紙を書く・電話をする(作っている人、お店の人など)
本・インターネット
実際に食べてみる、作ってみる。

1 歴史(いつごろから、作られるようになったきっかけ)

【調べてきたことを発表する児童たち】

(2) 追求する・まとめる (8時間)

いろいろな郷土料理について調べ、材料や作り方の歴史、受け継がれてきた人の思いなどをまとめていくことで郷土に対する関心を高め、郷土料理の良さに気付くことができた。まとめ方としては模造紙・紙芝居・パソコンによるプレゼン・画用紙にまとめる方法を行った。発表会ではグループ毎にクイズを入れたり、実際に作ってきた料理をみんなに見せ、食べさせるなどの工夫をした。発表会の最後に地元のゲストティーチャーを招き地元の郷土料理、特産物についての話をしてもらった。



(3) 表現する・振り返る (5時間)

調べてきたことをもとに自分たちならではの郷土料理を考え実際に調理実習を行いみんなで作った。

調理実習では学校栄養職員や地域に方に来て頂き、アドバイスをもらいながら調理をしていった。各グループでこれまでの活動(調理や考えたこと)を発表し、協力

して下さった方にお礼の手紙を書いた。手紙を書いて渡すだけでなく、これからも日南の郷土料理や歴史に関心を持ち、受け継いでいくことの大切さを感じるために自己評価を行い授業の最後とした。

ふるさとの日南について考えてみよう。

名前()

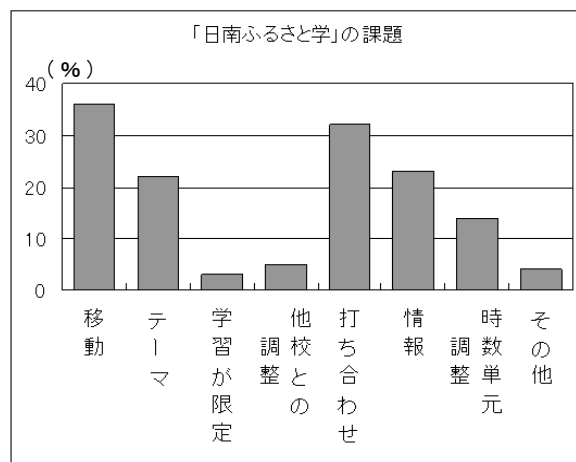
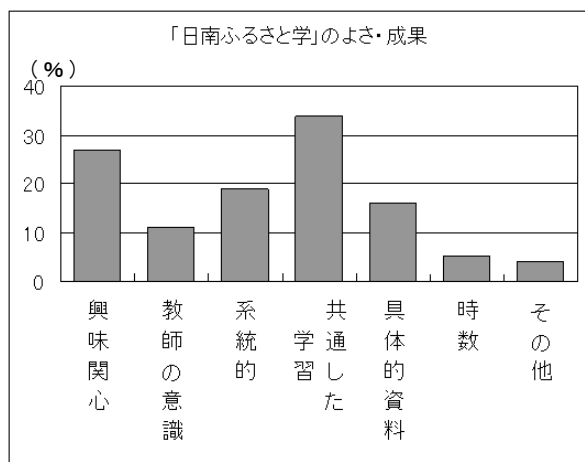
※ 日南市や東郷地区の自分の知っている郷土料理、「特産物」、「有名な人・場所」について、書きましょ。

※ おうちの人や地域の人にも聞いてみましょう。
【空欄があってもかまいません。分かることを書いてましょ。】

① 日南市

	日南の食べ物(郷土料理)	特産物	有名な人・場所
自分			
おうちの人			

ウ 成果と課題



「日南ふるさと学」のよさとして、「日南市内の児童生徒が共通に学習する内容が明確になった」「児童たちのテーマに対する興味・関心が高まった」「学習内容の重複を見直し、系統的に整理された」等が挙げられている。旧日南市の学校では、全ての学校で実践あるいは実践予定であり、日南市を知り、日南市を誇りに思う児童生徒の育成が着実に図られている。

一方、「体験場所への移動」「見学場所との打ち合わせ」等が課題として多く挙がっている。時間や交通手段、金銭面での問題などが考えられるが、今後、校内コーディネーターや学校間コーディネーター等を配置するなどの指導体制の工夫が求められる。また、次年度の円滑な実施に向けて、地域や学校の実態に応じたテーマ設定の在り方やテーマに関する各学校への情報提供についてさらに検討していく必要がある。

3 「日南コミュニケーションスキルプログラム」研究班

(1) はじめに

近年、児童生徒を取り巻く人的環境は、大きく変化してきている。核家族化や共働きの家庭の増加、多年齢集団での活動機会の減少などで、児童生徒のコミュニケーション力が低下してきたとの指摘がある。そのような環境の中で、児童生徒が人間関係を築く力を、日常生活の中で自然に身に付けることが難しくなっている。

本市で昨年度行った「学校生活満足度アンケート」によると、学校生活不満足群（非常に不安傾向の強い児童生徒、他とのトラブルの可能性が高い児童生徒）が、小中学校共に約20%ほどいるという結果が出た。

事実、学校生活の中での些細な人間関係のトラブルが、いじめや不登校などの大きな問題に発展することも少なくない。このような現状をふまえ、本市の教務主任会において「子どもたちはコミュニケーションが上手くとれずに、人間関係で悩んだり、問題行動を起こしたりしている。したがって、学校においてコミュニケーションについて学ばせる必要がある。」という意見が多くだされた。また、保護者や地域も、「相手の気持ちを考え、温かく接することができる子どもになってほしい。」（日南市教育相談センター運営協議会での意見）という願いをもっている。

そこで、好ましい人間関係づくりのためのスキル学習を、市内全ての小中学校で実施したいと考えた。目指す児童生徒像を「豊かな人間関係を築き、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童生徒」とし、小中一貫した9か年の体系的指導プログラム「日南コミュニケーションスキルプログラム」を作成することとした。

(2) 指導内容一覧、学年別指導細目、指導事例の作成

ア 指導内容一覧の作成

好ましい人間関係づくりのための
 の小中一貫した9か年の指導内容を
 を特別活動（学級活動）の中に位
 置付け、小学校から中学校まで各
 4時間ずつ、小学校入学から中学
 校卒業までの9年間、合計36時
 間の学習を行う。

なお、9か年を4つのステージ
 に分け、

ステージⅠ・・・小学校1、2学年

ステージⅡ・・・小学校3、4学年

ステージⅢ・・・小学校5、6学年

ステージⅣ・・・中学校1～3学年

とした。

イ 学年別指導細目の作成

学習指導要領における位置づけ
 を示し、各学年での目標を明確に
 することで、指導内容を明らかに

した。また、獲得させたいスキルを明示することで、教師側が、児童生徒に定着させたいス
 キルを意識し、授業を行えるようにした。

	学 年	指 導 内 容	時数
ス テ ー ジ Ⅰ	小学校1年生	1 あいさつ上手になろう 2 上手な聴き方をしよう① 3 感謝する言葉をかけよう 4 ほめる言葉をかけよう	1 1 1 1
	小学校2年生	1 うまくなかまに入ろう 2 上手な話し方をしよう① 3 励ます言葉をかけよう 4 気づかう言葉をかけよう	1 1 1 1
	小学校3年生	1 上手な聴き方をしよう② 2 上手な話し方をしよう② 3 あたたかい言葉をかけよう①（感謝・賞賛） 4 あたたかい言葉をかけよう②（激励・心配）	1 1 1 1
	小学校4年生	1 上手に頼もう 2 上手に断ろう 3 パワーが出る言葉をかけよう① 4 パワーが出る言葉をかけよう②	1 1 1 1
ス テ ー ジ Ⅱ	小学校5年生	1 場面・考え・気持ちを分けよう 2 嫌な気持ちになる考えを理解しよう 3 嫌な気持ちになる考えに打ち勝とう① 4 嫌な気持ちになる考えに打ち勝とう②	1 1 1 1
	小学校6年生	1 トラブル解決のための目標を決めよう① 2 トラブル解決のための目標を決めよう② 3 たくさんの解決方法を考えよう 4 結果を予想して、一番よい方法をやってみよう	1 1 1 1
	中学校1年生	1 心の健康について考えよう 2 相手の気持ちにあわせた、あたたかい声かけや行動をしよう 3 自分と相手の気持ちを大切にしたい上手な頼み方をしよう 4 自分と相手の気持ちを大切にしたい上手な断り方をしよう	1 1 1 1
	中学校2年生	1 考えと気持ちに注目しよう 2 別の考えがあるか探してみよう 3 問題を解決する方法を考えよう 4 さまざまな問題を解決していこう	1 1 1 1
ス テ ー ジ Ⅲ	中学校3年生	1 コミュニケーションプログラムを復習しよう 2 問題解決の方法を考えて実行しよう① 3 問題解決の方法を考えて実行しよう② 4 問題解決の方法を考えて実行しよう③	1 1 1 1

【日南コミュニケーションスキルプログラム】ステージⅡ（小学校4年生）

【小学校4年生】

順	プログラム名 【学習指導要領・特別活動 （学級活動）での位置付け】	目 標	獲得させたいスキル
1	上手に頼もう 【基本的な生活習慣の形成】 【望ましい人間関係の形成】	○ 頼み方によって、相手に与える印象が違っていることに気付く。 ○ 上手な頼み方を知り、ポイントを押さえ上手に頼むことができる。	○ 相手が気持ちよく頼み事を聞いてくれるような上手な頼み方・訳を言う ・何をしたいのか言う ・頼み事を聞いてもらえたらお礼
2	上手に断ろう 【基本的な生活習慣の形成】 【望ましい人間関係の形成】	○ 断り方によって、相手に与える印象が違っていることに気付く。 ○ 上手な断り方を知り、ポイントを押さえ上手に断ることができる。	○ 相手が快く断りを承諾してくれるような断り方 ・謝る ・理由 ・断る ・代わりの言葉
3	パワーが出る言葉をかけよう① 【望ましい人間関係の形成】	○ 自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるかに気付く。 ○ あたたかい言葉かけとは何かを知り、状況に応じた言葉かけができる。	○ 自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるかに気付く。 ○ あたたかい言葉かけとは何かを知り、状況に応じた言葉かけができる。
4	パワーが出る言葉をかけよう② 【望ましい人間関係の形成】	○ 自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるかに気付く。 ○ あたたかい言葉かけとは何かを知り、状況に応じた言葉かけができる。	○ 自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるかに気付く。 ○ あたたかい言葉かけとは何かを知り、状況に応じた言葉かけができる。

※第3時と第4時は、続けて実施した方が好ましい。

ウ 指導案例の作成

第4学年 日南コミュニケーションスキルプログラム指導案			
1	題材	第1時「上手に頼もう」	
2	本時の目標	○ 頼み方によって、相手に与える印象が違っていることに気付く。 ○ 上手な頼み方を知り、ポイントをおさえて上手に頼むことができる。	
3	獲得させたいスキル	○ 相手が気持ちよく頼み事を聞いてくれるような上手な頼み方 (訳を言う、何をして欲しいのか言う、頼み事を聞いてもらえたらお礼を言う)	
4	学習指導過程		
段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料準備
導入	1 学習の約束を確認する。 (1) 人のことを笑わない。 (2) ふざけない。 (3) はずかしがらない。	○ 学習の約束を確認させることで、児童が意欲的に学習に取り組むことができる雰囲気作りをする。	約束カード めあてカード
	2 本時の目標を知る。 上手に頼もう		
展開	3 事件ファイルの説明を聞いて考える。 【パソコン使わせて！】 パソコンを使って、調べ学習をしなければならないので、	○ ワークシートに沿って、教師が、ロールプレイをして見せることにより、場面を想像しやすくする。	ワークシート

エ 成果と課題

本コミュニケーションスキルプログラムを特別活動に位置付けて作成するにあたっては、学級活動年間指導計画と照らし合わせながら検討を行ってきた。宮崎大学の研究プログラムを参考にすることで、小学校1年生から中学校3年生までの指導内容一覧を作成することができた。

また、各学年におけるプログラムの目標及び獲得させたいスキル・認知を明確にし、学習指導要領の指導項目との対応を明記した。それらが児童生徒のコミュニケーションを育成するプログラムとして効果的に機能し得るか、宮崎大学に足を運び、検討を重ねることで、指導内容を体系的に整理することが可能となった。さらに、全学年における一単位時間ごとの指導案例を作成することで、次年度からの実践に向けての土台づくりをすることができた。

このコミュニケーションスキルプログラムを実施する時期や、他教科・他領域とどのように関連させていくか等については、今後の大きな課題であり、学年・学校種を越えて、連携を図っていくことが必要となる。児童生徒の実態を常に把握しながら実践を行い、本プログラムを検証・改善し続けていくことが重要である。

VII 成果と課題

＜教育課程研究班＞

(成果)

- ・ 小学校と中学校の教師でT Tを実施したことで、既習事項の確認や新出事項との関連を意識させることができ、スムーズな単元の導入ができた。
- ・ 学習内容系統表や学習到達状況調査表を活用することにより、内容の系統性を踏まえた指導や児童生徒のレディネス、習熟度を踏まえた実態に即した指導を行うことができた。

(課題)

- ・ 今後、算数・数学科の全領域において、学習内容系統表を作成し、活用を図っていく必要がある。

＜特色ある教育研究班＞

(成果)

- ・ 「日南ふるさと学」についての状況調査を実施したことで、その実践の状況を把握することができ、成果と課題が明確になった。
- ・ 旧日南市では、全ての小中学校で「日南ふるさと学」を実践しており、日南ならではの特色ある教育が着実に進められてきている

(課題)

- ・ 次年度の「日南ふるさと学」の円滑な実施に向けて、指導体制の工夫やテーマ設定等についてさらに検討していく必要がある。

＜日南コミュニケーションスキルプログラム研究班＞

(成果)

- ・ 宮崎大学のプログラムを基にして、小学校1年生から中学校3年生までの9年間をとおした指導内容及び目標を整理したことで、次年度からの実践に向けての土台づくりをすることができた。

(課題)

- ・ 本年度作成したプログラムが、次年度以降、各学校で実際に使えるものであるかどうか検証し、改善を加えていく必要がある。

○ 引用・参考文献

- ・ 小学校学習指導要領解説 算数編 平成20年8月 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領解説 数学編 平成20年9月 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省
- ・ 後世に伝えたい日南50景 平成13年3月31日 日南市

○ 研究同人

＜日南市教育研究所＞

役 職	氏 名	所 属 ・ 職 名	役 職	氏 名	所 属 ・ 職 名
所 長	安野 喜宏	日南市教育委員会 教育長	研究員	竹下 真生	東郷小学校 教諭
副所長	田代 和浩	〃 教育専門対策監	〃	谷口 朋美	北郷小中学校教諭
事務局	川口 浩倫	〃 指導主事	〃	外山 祐輔	潟上小学校 教諭
事務局	田上 幸雅	〃 指導主事	〃	安樂 美子	油津中学校 教諭
事務局	木場麻利子	〃 指導主事	〃	川野 元義	吾田中学校 教諭
主 任	米良 照彦	吾田小学校 教頭	〃	川口 直	細田中学校 教諭
副主任	古木 克浩	飢肥中学校 教頭	〃	川越 政紀	〃
研究員	小松 秀一	吾田小学校 教諭	〃	小野賢太郎	南郷中学校 教諭
〃	高梨 望	油津小学校 教諭			